

今日、地球レベルの環境問題が深刻化する下で「持続可能な発展」の概念が国際的に認識されるようになった。「持続可能な発展」とは、生活の基本的な要求をみたしながら、生活そのもの、ライフスタイルのありかたを問い直すものである。

従来より、女性は家族、地域コミュニティなどの生活環境において、生活者として、その中心的役割を担ってきた。地球環境問題を考えていく上で、女性の果たす役割は非常に大きい。

ところが、この女性役割を、家族、地域コミュニティレベルで考えたとき、ジェンダー(社会的、文化的性差)の視点からとらえなおす必要があるように思える。特に、家政学は、この点に注意深く、関わる必要があると考える。

女は家事、男は仕事という性別役割分業意識と同じように、家政学は<家庭内>、<消費者の立場><それを担うのは女性>といった枠を自ら課しているのではなかろうか。

本シンポジウムにおいて、筆者は、「持続可能な発展」の概念と女性のエンパワーメントの視点を統一し、積極的な地域プロジェクトを推進してきているノルウェーでの事例を93年4～11月に滞在した折の経験とその後の調査より紹介することによって、上記の問題意識を展開したいと考える。